

守口市 さよならムーブ21

四半世紀にわたってムーブ21の愛称で市民に親しまれてきた守口市生涯学習情報センターは今年3月末で閉館となり、来年4月に(仮称)守口市立図書館としてリニューアルオープンする予定だ。

演奏者も聴衆も心地よい音楽空間

生涯学習情報センターは、21世紀を視野に入れた理想の図書館像を夢見る人々の期待のもと、平成5(1993)年、市民の学習ニーズに応える知識と情報のネットワーク機能をもち、あらゆる芸術活動の拠点となる多機能型施設として誕生した。愛称を公募したところ多くの候補作からムーブ21が選ばれた。

ムーブ21の誕生

ムーブ21館長の町中俊文さんと大阪音楽大学教授の音楽家・晴雅彦さんにムーブ21についての話を伺った。

Aコソバ(以下A)：エントランスホールでコンサートを始めたいきっかけは、町中館長(以下M)：最初は晴さんが講師を務めた市民講座でした。

晴教授(以下H)：私が「皆さんと一緒に歌いましょう」というお話をしましたら、「私の歌を聴きたい」というご意見をいただきコンサートを…。そのご縁をきっかけに次々と続いてまいりました。

名付け親の木下祥子さん(57)は、「ムーブは英語で『心を動かす』という意味。感動を持って学習できる拠点となってほしい」と思い名付けました。当時、子どもは小学1年生。館内のプラネタリウムで星を見る感動も

イメージしました。私のお気に入りにはロビーコンサート。ワンコインで質の高い音楽が聴けて、クラシックへの敷居が低くなりました」と話す。

ムーブ21館長の町中俊文さんと大阪音楽大学教授の音楽家・晴雅彦さんにムーブ21についての話を伺った。

供していただき感謝しています。ムーブは本当に開かれた場で、お客さまも音楽ホールじゃなくロビーという気軽さで足を踏み入れることができます。それと、天井が高くて床に絨毯が敷かれてないロビーなので、生演奏のクラシック奏者にとって、共鳴音が素晴らしい楽器のような空間になります。

A：生徒や新人の方たちに発表の機会を与えることは、大切ですね。

H：私たちはお客様に音楽を提供して初めてそれが職業になる訳で、「百聞は一見にしかず」という言葉がある通り、そういう機会は一回でも多い方がいいですね。自主公演自体は簡単です。お金さえたせば…。でも多くの若者はお金もなく、宣



この日デビューした音大生の福西仁さん(テノール)とピアニスト・前川裕介さん

M：残念ですがお断りさせていただきます。

H：これから更に活性化しようという時に閉館してしまうのは、本当に残念で寂しい。私も含め多くの若者のデビューはムーブ21でしたから。A：ところで、リニューアル後の新図書館に望むことは？

伝する手段もない。それ、館長ご自身がSNSなども使って広報活動もしてくたさる。素晴らしいです。まだまだ出演したい方が多

M：今まで『志は高く、敷居は低く』をモットーに、オモチャ箱をひっくり返したように色んなジャンルをやりましようという感じで25年間、走り続けてきました。利用者様からの惜しむ声などを聞くと我々の仕事も無駄でなかったと勝手に(笑)自負しています。

今のお客様を大事に考えるのは当然のこと。口幅ったいですがそのムーブファンが離れないように、現在の機能は残していただきたいと進言しています。

2月、3月は、多彩な趣向でグランドフィナーレコンサートを予定しています。お見逃しなく！(問・予・販) ムーブ21

☎06-6905-3921



エントランスホールでの「クラリネットアンサンブル」公演

なかなか発表の場を得ることが難しい。公演を開くには、貸ホール代、チケット販売、チラシの制作や配布等々を全部自前でやらないといけないので、それをこちらが全部お膳立てしてくたさるので、演奏に専念できます。演奏家にとって一番ありがたい環境を提



音大教授の晴さん(左)と館長の町中さん